

令和元年度 高齢者交通安全対策事業

実施日： 6日間

前期： 5月21日、6月11日、 7月 9日

後期：10月 8日、11月19日、12月 3日

参加者：108名

海南市老人クラブ連合会会員	16名
紀美野町老人クラブ連合会会員	18名
海南市女性会員他	16名
紀美野町地域サロン会員他	10名
JAながみね	3名
一般公募	18名
和歌山市交通指導員会	3名
海南市公民館会員	24名

海草振興局

高齢者の個々の運転技能に応じた交通安全対策事業

海草振興局

【目的】

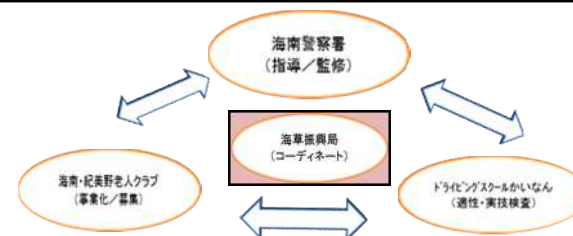
高齢者及びその家族に、現在の身体能力と安全運転能力を正確に認識する「気づきの機会」を提供することで、高齢ドライバーの加害事故を防止する。

【特色】

地域の団体、警察署、自動車教習所による協働・実践型の交通安全対策事業
ドライブレコーダを活用し、個々の高齢者が自分の運転技能を可視化

【特徴】

- 家族ぐるみで運転技能を認識してもらう
- 警察官が個別アドバイスをする
- 地元の自動車教習所が全面的協力(無償)



【実施内容】

教習所指導員の
運転実技チェック



視力・視野角度チェック



ドライブレコーダー映像をもとに
海南署警察官による個別アドバ
イス



参加者内訳と運転の状況(その1)

【参加者(108名)内訳】

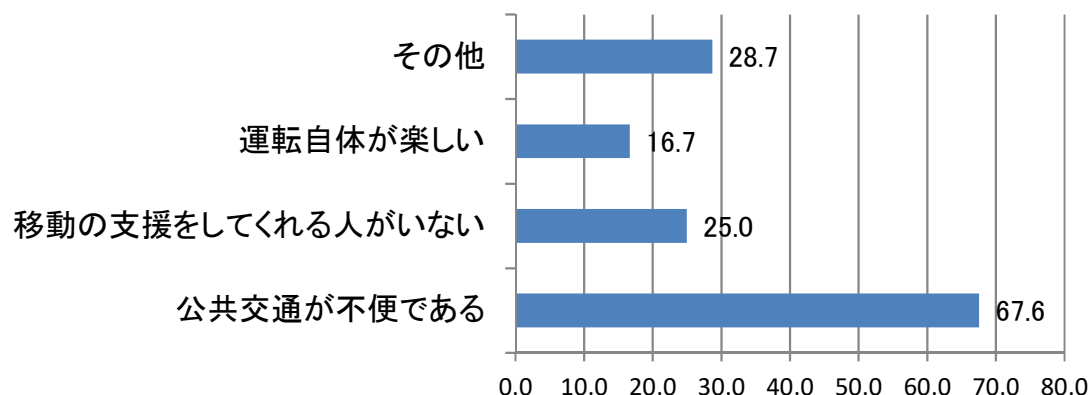
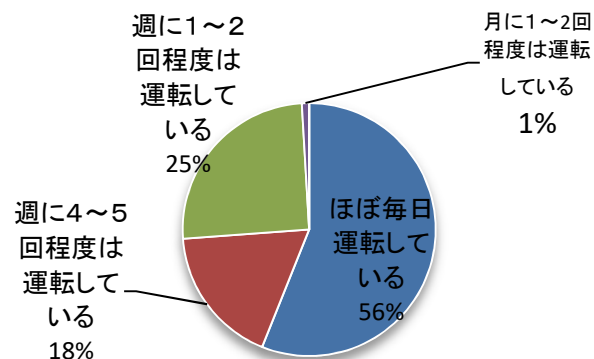
○平均 72.5歳

男女比	全体	人数	割合
男性	108	56	51.9
女性	108	52	48.1

年代	全体	人数	割合
50代	108	3	2.8
60代	108	31	28.7
70代	108	59	54.6
80代	108	13	12.0
90代	108	2	1.9

最高齢	90
最年少	57

【運転の状況と運転する理由】



◆運転する理由については、「公共交通が不便だから」が最も多く約7割、「移動の支援をしてくれる者がいない」と25%の方が回答。

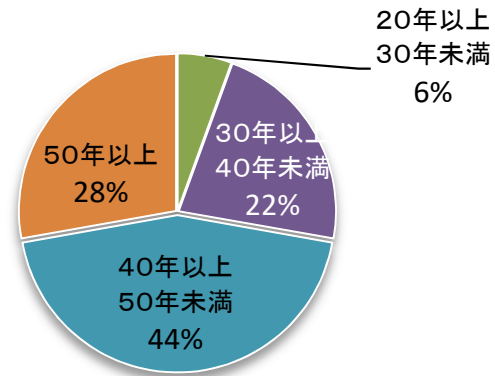
◆「その他」については、3割近い方が買い物や農作業、仕事の交通手段、また趣味のために必要という回答であった。

また、「運転自体が楽しいから」という回答も17%あった。

⇒高齢者の生活スタイルの多様化により、運転する理由も様々であることが読み取れる。

事前アンケート(その1)

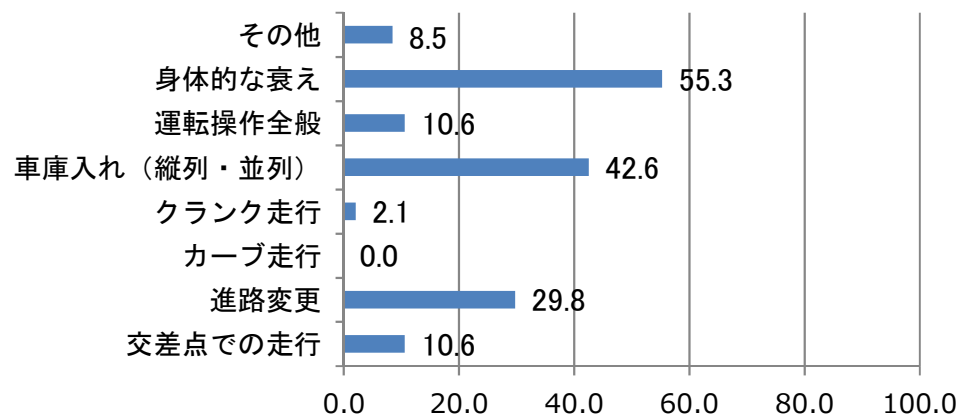
【運転歴について】



◆運転歴については、40年以上が全体の72%、50年以上も、3割近い。

【運転に自信がない人に聞いた不安な点】

◆「運転に自信がない」と答えた人の不安な点として「身体的な衰え」が55.3%と一番多かった。ついで「車庫入れ」、「進路変更」だった。

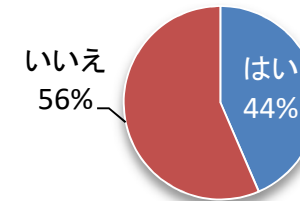


事前アンケート(その2)

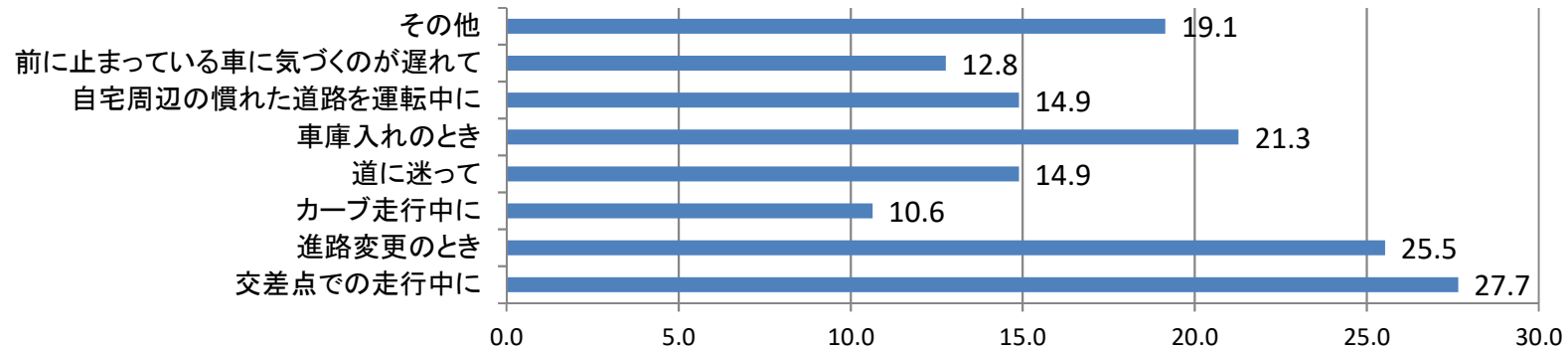
過去3ヶ月以内に運転中にハットしたりヒヤリとした経験はありますか／SA

全体 人数 割合

はい	108	47	43.5
いいえ	108	61	56.5



それはどんなときですか？

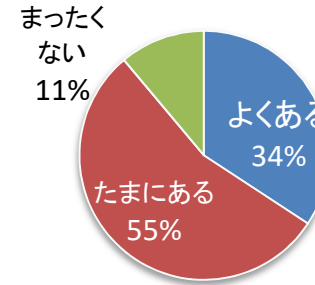


◆運転中にハットしたりヒヤリとした経験について、44%の方が経験ありと答えている。
内容については、交差点での走行のときが一番多く、ついで進路変更のとき、車庫入れのときという回答だった。

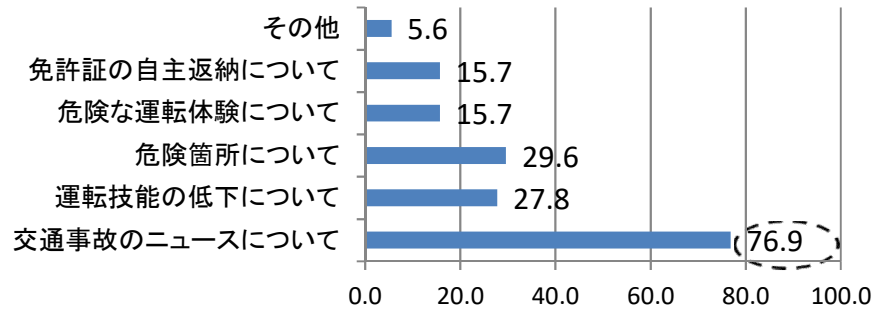
事前アンケート(その3)

交通安全について家族と話をすることがありますか/SA

	全体	人数	割合
よくある	108	37	34.3
たまにある	108	59	54.6
まったくない	108	12	11.1



それはどんな内容ですか？

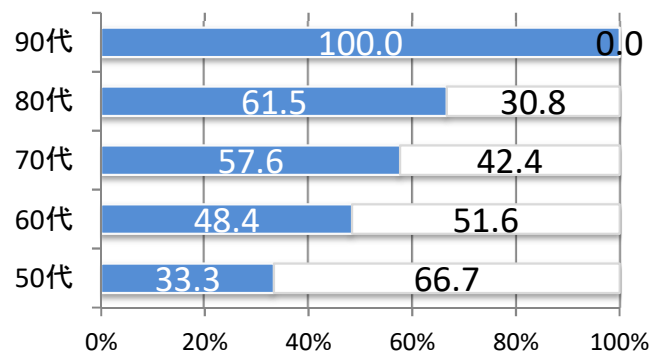


◆交通安全について家族と話をすることがある人は全体の約9割。内容は、「交通事故のニュースについて」が最も多く、「危険箇所」、「運転技能の低下」についても全体の3割近くあった。

受講結果(その1)

【事前アンケートで自分の運転について自信がある人】

- 自信あり 67名
- 自信なし 40名
- 無回答 1名

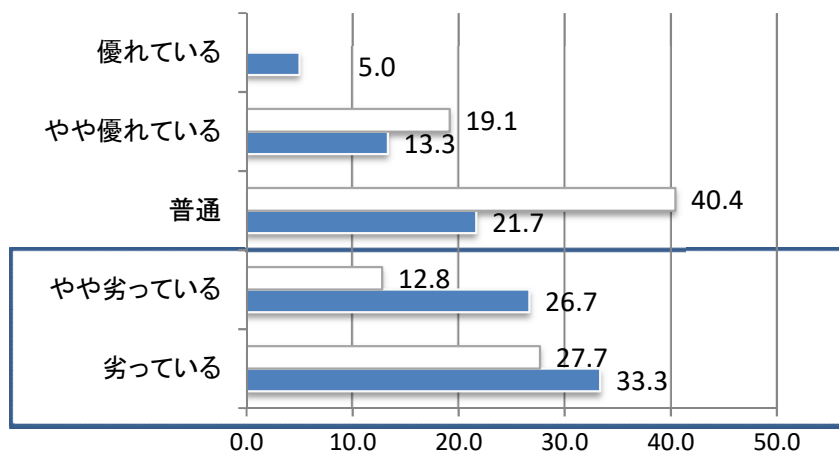


◆運転に自信がある人は、50代が約3割であるのに対し60代が48%、70代では57%、80代で61%と増加傾向にある。90代では100%になっている。

【視力、視野角度結果について】

①動体視力検査について

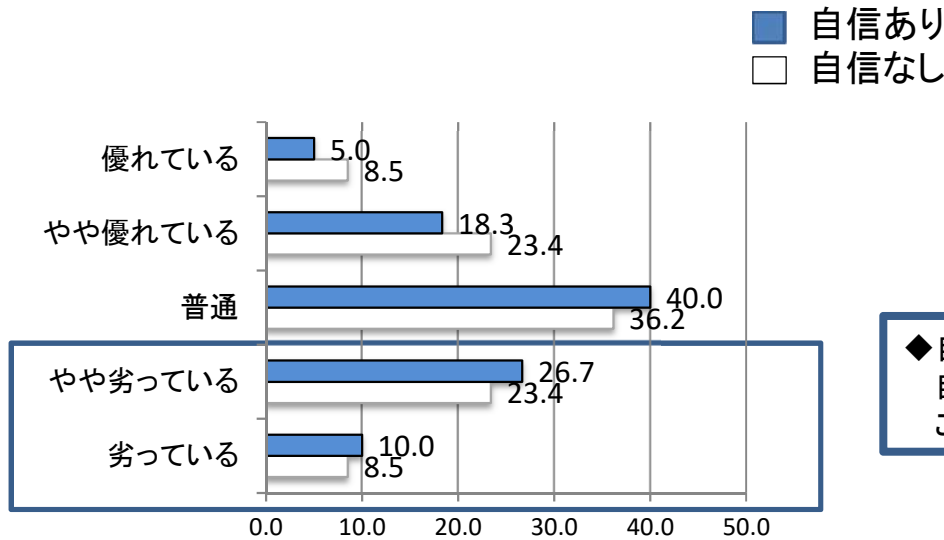
- 「自信あり」 67名
- 「自信なし」 40名



◆自信のある人ほど、動体視力の悪い人の割合が高く、特に「劣っている」人は1/3を占める。動体視力の衰えに気付かず運転している人が多いことを示している。

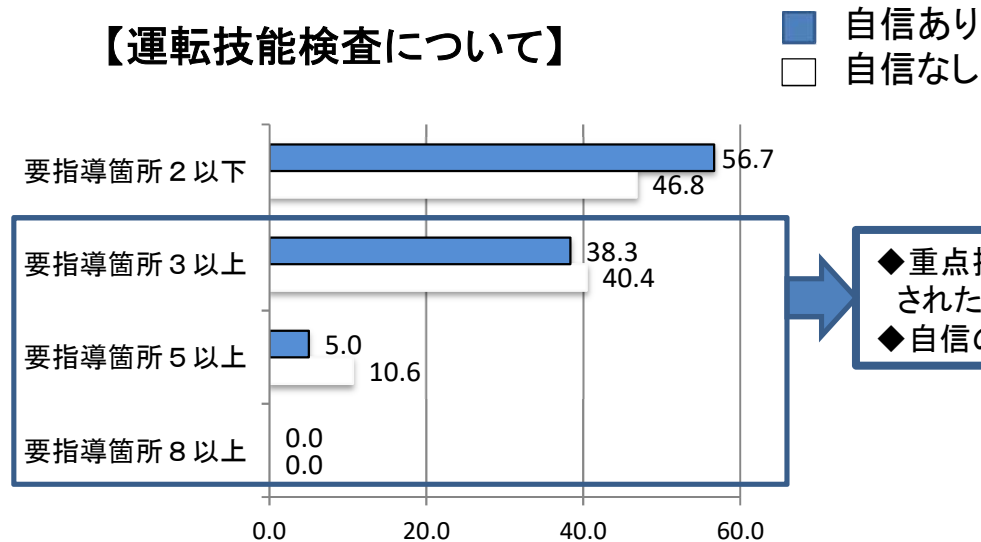
受講結果(その2-1)

【夜間視力検査について】



◆自信のある人のうち、36.7%は「やや劣っている」か「劣っている」、自信のある人でも、夜間視力が昼間の視力と比べて低下していることに気付かずに運転している

【運転技能検査について】



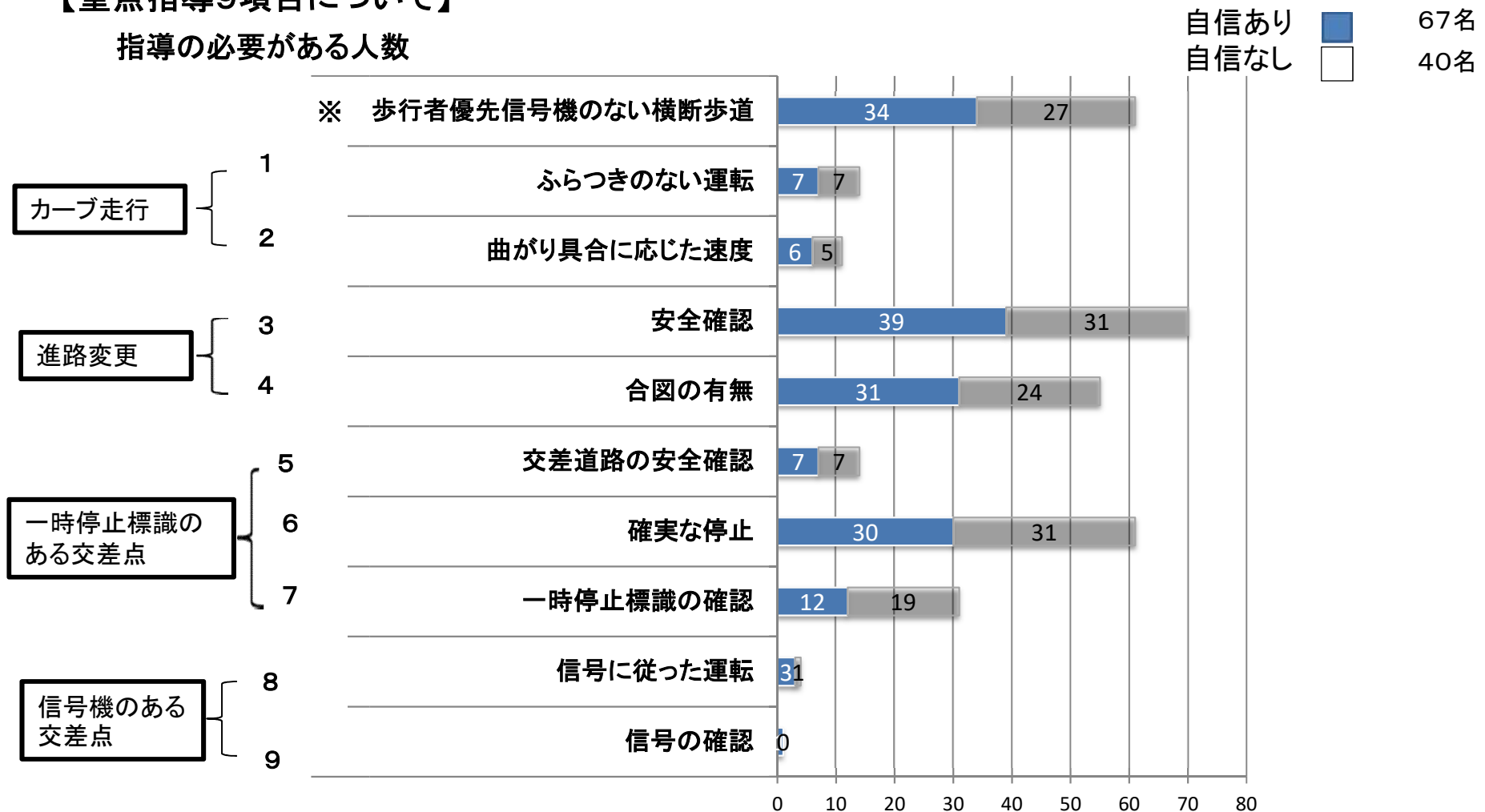
◆重点指導項目(9項目)のうち、3項目以上に指導の必要ありと指摘された人は全体の46.7%

◆自信のある人のうち「要指導箇所」が3以上ある人は43.3%

受講結果(その2-2)

【重点指導9項目について】

指導の必要がある人数

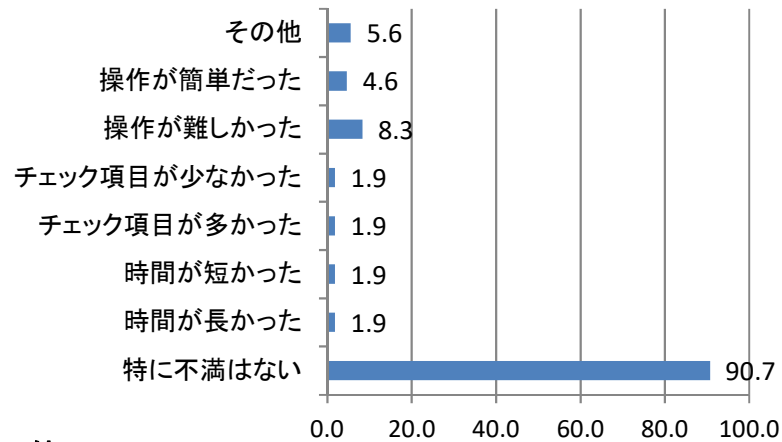


※重点指導9項目ではないが、令和元年度よりチェック項目に追加

事後アンケート(その1)

【研修内容について】

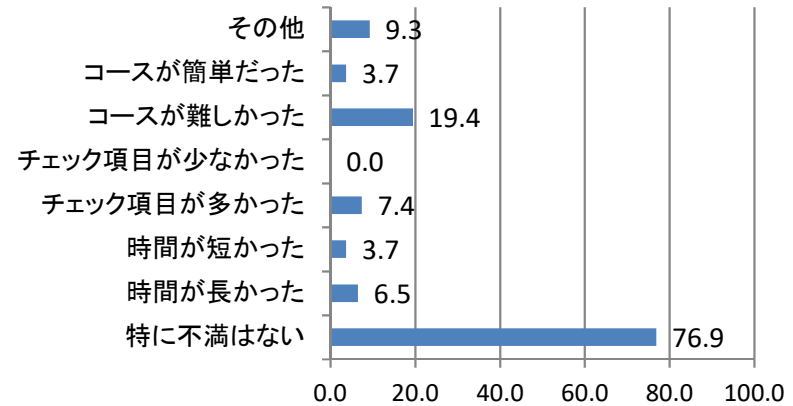
「視力・視野角度チェック」はどうでしたか？



その他

- ・自分の夜間視力の低下が再認識できた
- ・自分の能力を知る良い機会だった

「運転実技チェック」はどうでしたか？



その他

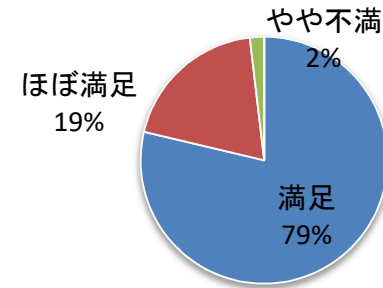
- ・停止しているつもりでもできていない
- ・標識の見落としが多い
- ・バックが上手くできなかった
- ・交差点ではもっと気をつけたい
- ・教則を思い返す良い機会だった
- ・運転を見直す良い機会だった

◆視力・視野角度チェックについては約9割が特に不満はないと回答。
運転実技チェックは約8割は特に不満がないが、コースが難しいとの回答が約2割。

事後アンケート(その2)

「個別アドバイス」はどうでしたか？

	全体	人数	割合
満足	108	85	78.7
ほぼ満足	108	21	19.4
やや不満	108	2	1.9
不満	108	0	0.0

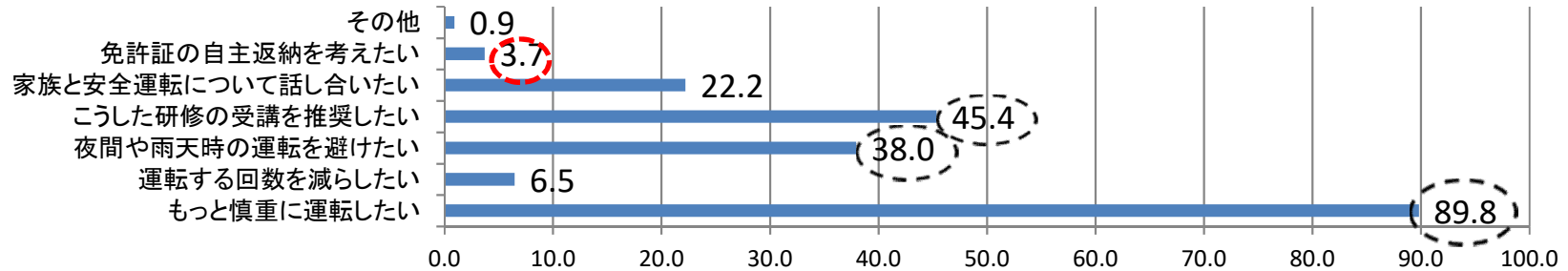


・親切にわかりやすく説明していただいた	・安全運転をしていると言われたが、2点の指摘があり、反省したい
・普段乗っている車とは違ったが、丁寧に指導してくれた	・これからの運転の参考になった
・自分の癖を説明してくれた	・運転時の状態を詳しくチェックしてくれた
・ カメラの映像を見ながらのアドバイスはよくわかった	・ 運転歴が長く、運転への注意が怠慢になっていた
・注意点がよく理解できた	・ 自分の衰えた点についてのアドバイスがよかった
・自分の不注意さを意識させられた。もう少し慣れで運転しているところを見直し、速度を落としたい	・具体的な説明で、注意事項が非常によくわかった
・日常では気付かないことも気付くことができた	・普段見過ごしていた事が大切だとよくわかった
・指導員の方の優しさで緊張がほぐれて研修を受講できた	・ 交通安全に対する認識を新たにしました
・ 一時停止が遅いことがよくわかった	・自分が出来てないところを指摘され、納得した
・運転中にアドバイスをいただき、よく理解できた	・ 横断歩道に歩行者がいる場合の対応について指摘を受けた以後歩行者優先を徹底するよう努めたい
・ 普段通りの運転を心がけたところ、標識の見落とし等注意を受けた欠点がよくわかった	

◆個別アドバイスについては、「満足」、「ほぼ満足」との回答が98%あった。

事後アンケート(その3)

【これからの安全運転の取組について】

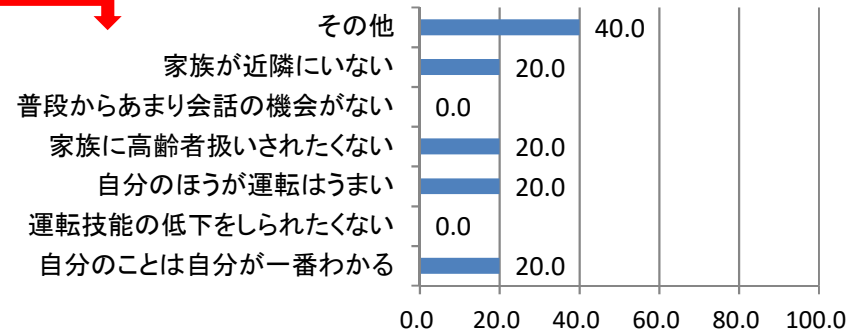
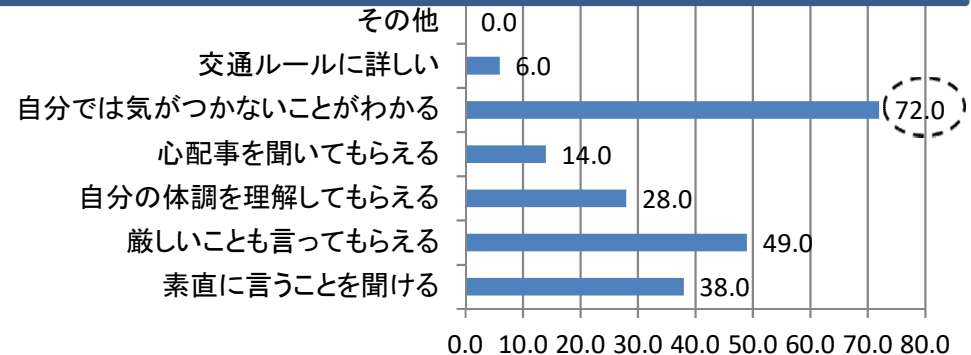


◆約9割の受講者が「もっと慎重に運転したい」と回答。ついで、「夜間や雨天時の運転を避けたい」も38%が回答。また、「自主返納を考えたい」という人が4名いた。

【安全運転に果たす家族の役割について】

	人数	割合
非常に大きい	56	51.9
大きい	44	40.7
あまり大きくない	4	3.7
大きくない	1	0.9
無回答	3	2.8

◆9割以上が、家族の役割について、「大きい」、「非常に大きい」と回答。理由については、「自分では気がつかないことがわかる」という回答が72%で最も多かった。また、「あまり大きくない」、「大きくない」と答えた人は、「自分のことは自分が一番わかる」、「家族が近隣にいない」等と回答。



【ポイント】

●現状について

- ◇公共交通が不便(約7割)、移動の支援をしてくれる人がいないために自分で車を運転している。(25%)
- ◇年齢を重ねる毎に自分の運転に自信を持つ傾向がある。
- ◇9割近くの人が交通安全について家族と話をしている。
主な内容は、「交通事故のニュース」について。「免許証の自主返納」についても2割近くあった。

●検査結果について

- ◇動体視力については、自信のある人ほど「劣っている」が一番多く、動体視力の衰えに気付いていない人が多かった。
- ◇運転技能検査については、信号機のない横断歩道での歩行者優先について、6割近くが指導の必要があった。
- ◇自分の運転を映像で客観的に見てもらうことで、慣れからくる悪い癖に気付いてもらえた。
重点指導項目(9項目)のうち事故に直結しかねない進路変更時の「安全確認」、「合図の有無」、一時停止標識のある交差点における「確実な停止」は、全体の半数以上の方が要指導となっている。

●受講後の意識変化について

～研修当日～

- ◇受講者の多くが、これからの運転をもっと慎重に運転したいと考えている。(約9割)
- ◇こうした研修の受講を推進したい(約45%)
- ◇「夜間や雨天時の運転を避けたい」(38%)
- ◇家族の役割について、大多数が「大きい」、「非常に大きい」と考えている。(9割以上)
理由は、自分では気がつかないことがわかるからが最多。

【まとめ】

- ◇高齢になるほど、自分の運転に自信を持つ傾向にあるが、身体能力(反射神経や視力等)の衰えと慣れからくる我流運転により安全運転能力は低下する。自分の運転能力を正しく認識してもらうことで、安全運転に対する意識の向上が図られた。
- ◇家族の役割については、高齢者自身が認識しており、事故防止について、家族ぐるみで考える機会を提供できた。